



地域ぐるみ環境講座 下伊那農業高校でスタート

下伊那農業高校で「地域ぐるみ環境講座」がスタートします。3月15日(木)の研究会事業所代表者全体会で、「土地利用から探る私たちの未来～県地区の土地利用と温度環境」をテーマに、同校生徒の皆さんの研究成果を発表していただきました。

その縁から、現場で実際に環境改善に取り組む研究会参加事業所から学びたい、学校からの相談を受け、研究会メンバーが講師となり、「地域ぐるみ環境講座」という連続講座として開催する運びとなりました。



第1回目は6月18日(月)11時から12時50分に開催。「環境問題と事業所の環境改善の取り組みから」(オムロン飯田株式会社)、「生ゴミ処理機の生産から始まった循環の取り組み」(株式会社原鉄)。研究会に参加する2社の担当者の講義です。対象は食品化学科、アグリサービス科の生徒の皆さんです。

同校の卒業生の7割が地元就職します。在校中から地元企業とのつながりを持つことは、進路を考える意義ある機会です。人材育成に貢献する機会、事業所にとっても有用です。

「食品加工のしくみや加工の現場を知る」「水処理の現状と課題」。研究会メンバーが講師となって、あと数回の講座を予定しています。

「地域ぐるみ環境講座」を通し、同校とのつながりが一層深まり、そして他校にもこの取り組みの広がることも期待されます。なお、講座聴講の希望者は、研究会事務局までお問い合わせください。

適合性から有効性監査へ 市役所内部監査員教育より

「環境マネジメントシステムは、規格との適合性だけを意識しているとシステムの改善が停滞したり、不適合があまり発見されなくなります。マネジメントシステムの本来業務への適用度を評価する、有効性監査の視点が必要です」。

5月25日(金)飯田市役所環境マネジメントシステム、内部監査員教育が行われました。講師は主任審査員の近藤明人さん。

「教育計画の作成(Plan)、教育訓練(Do)、教育訓練の評価(Check)、システムの改善(Act)、項番の事項に対して、PDCAの考え方で評価する視点も必要です」「規格の項番順に進めるだけでなく、サンプリングした事項にたいし、項番を越えて掘り下げていくプロセス監査も有効です」「すべての部署の事務事業が、環境に影響を及ぼしているとは限りません。他の部署を支援、協力するという視点から環境側面を考えることも有効です」「実行計画のスケジュール通りに管理されているかが、EMS導入の初期段階では重要ですが、システムが定着しさらなる有効性を図るためには、実施計画の手段が適切であるか検証することが必要です」。(講義より)



今年も7月、飯田市役所の相互内部監査が行われます。監査日程は近日中に公開。相互内部監査員、オブザーバとして参加者を募集します。多くの皆さんの参加、お待ちしております。

齋藤喜孝さんを迎えて トップインタビュー開催

7月の内部監査に先立ち、飯田市役所では、牧野光朗飯田市長にたいするトップインタビューを行います。

飯田市役所の環境マネジメントシステムや、持続可能な地域づくりにたいする、市長の考えを表明し、その考えを内部監査に反映することが目的です。

インタビューは齋藤喜孝さん。齋藤さんは日本適合性認定協会(JAB)の環境マネジメントシステムの立ち上げ/発足に深く関与。日本で初めて国際規格の環境マネジメントシステムに取り組んだトヨタ自動車と新日本製鐵の立ち上げ/審査を担当されました。

6月15日(金)午後6時から6時50分まで、市役所3階大会議室で行います。

どなたでも参加できます。特に相互内部監査に参加を希望される方、ぜひご参加ください。

6月4日(月)は 環境と健康の講演会です

「環境と公害病について(環境カウンセラー、堤九十生さん)」「青い地球の物語(生活調査研究会、田川嘉隆さんココロジー研究所立山裕二さん)」。

6月4日(月)午後1時30分から4時30分、伊賀良公民館で「環境と健康の講演会in飯田」が行われます。主催は飯田市環境協議会。講師は大阪を拠点に活動を進める環境パートナーシップ協会(代表立山裕二さん)の皆さんです。

どなたでも参加できます。多くの皆さんの参加、お待ちしております。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



飯田市役所相互内部監査 今年も参加者を募集します

7月9日(月)から飯田市役所環境マネジメントシステム、相互内部監査が始まります。今年も内部監査に先立ち、6月15日(金)午後6時から牧野光朗飯田市長に対するトップインタビューも実施します。

2003年1月23日、飯田市役所は外部機関による審査から自己適合宣言に移行しました。自己適合宣言の客観性や透明性を担保する。組織外部の参加者とともに、市役所環境マネジメントシステムにとっても大変重要な機会です。

今年の内部監査では、トップインタビューとともに、事務局・環責監査を組織外部の相互内部監査員だけで実施する試みを準備中です。また4.3計画部分を中心にマニュアルを改正。環境影響評価や法令調査の充実を図っています。

相互内部監査の申し込み方

監査日程はHPで公開しています。参加条件は以下の通りです。

お名前 勤務先など 電話番号 資格・経験 監査を希望する課等(複数可) 「監査」「オブザーバ」の別

参加希望者は以下アドレスにメールでお申し込みください。

ikankyou@city.iida.nagano.jp

「監査」に参加いただくためには、環境マネジメント審査員の有資格者 内部監査員養成コースの修了者 内部監査員として2年以上の経験者、いずれかの条件を満たしていること。この条件に該当していなくても、「オブザーバ」としての参加が可能です。

多くの皆さんの参加、お待ちしております。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyosho/manage/index.html>

映画不都合な真実 6月16日から飯田で上映

温暖化によって引き起こされる深刻な地球環境問題に関するスライド講演のまとめ。地球と人類の危機と、温暖化防止を訴えるヒューマン・ドキュメンタリー映画。アメリカ合衆国元副大統領、アル・ゴア氏による「不都合な真実」が飯田で上映される運びとなりました。

アメリカ・ドキュメンタリー映画史上、記録的大ヒットとなり、日本国内各地でも多くの観客を集めています。

同名の著書も好評発売中です。



飯田での上映期間は6月16日(土)から28日(金)。会場は千劇シネマス(市内中央通り)。当日券1,800円のところ、前売り券1,000円で販売中です。

今月は環境月間、そして上映期間中の6月22日(金)は今年の夏至にあたります。22日から24日午後8時から10時にかけて、ライトダウンを呼びかける100万人のキャンドルナイトも行われます。

飯田市環境協議会(事務局：飯田市役所環境課内22-4511 内線5249担当小川)でも前売り券を取り扱い中。映画の照会、チケットの購入ご連絡ください。

改めて環境問題を考える機会としてご家族、お友だち誘いあって映画を鑑賞しませんか。

地域通貨 まーゆ で 豊かな人間関係づくりを

「私たちはこれまで、効率と競争を第一に限りなく『豊かさ』を追い求めてきた社会の中で、『お金』に縛られ、損か得かで物事を判断し価値をつくってきたのではないのでしょうか。この価値の基準を『マネー第一』から人間そのものを行かす『ヒューマンスケール』に転換することで、人と人、人と自然の関係を作り直すことに知恵、時間、技術などを使い、真の豊かさを実感できる暮らしと地域を創っていきたく願っています」。

上田市を拠点に活動を進める「蚕都くらぶ・まーゆ」代表世話人の安井啓子さんのことばです。

6月1日(金)長野県生涯学習センターで生涯学習推進講座が開催されました。安井さんは事例発表者の一人です。

4月15日軽トラック貸し出し1,000円受取、4月26日案内はがき作成代500円支払い、4月26日音楽会チケット支払い12,000円…。蚕都くらぶ・まーゆは、地域通貨のネットワーク。20代から70代の男女170人が参加。私のできることを「お助け一覧表」に登録し、名簿から互いにできることを探して交換。それを自分の通帳に記帳します。「まーゆ」を縁に、築かれる豊かな人間関係。「安心安全な手作り味噌PJ」「里山棚田再生PJ」「会員が講師となるまーゆ寺子屋」会員同士の交流から魅力的な企画がどんどん生まれています。

エコマネーともいわれる地域通貨。その魅力と可能性を感じる機会でした。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp





市役所EMS、牧野飯田市長にトップインタビュー

「『大気、水、土地、天然資源、植物、動物、人及びそれらの相互関係を含む、組織の活動を取りまくもの』ISO14001の規格では、環境を大変広く定義しています。人の状態が変わるのも環境影響です。自己適合宣言を行った飯田市が、国際規格の環境マネジメントシステムを越えるには、人が鍵となるでしょう。」



6月15日(金)午後6時から牧野光朗飯田市長に対するトップインタビューが行われました。インタビュアーは齋藤喜孝さん。齋藤さんはJABの環境マネジメントシステムの立ち上げ/発足にも関与。冒頭は齋藤さんの問題提起です。

「市民主体」「参加協働」自治基本条例とEMS

「『市民主体』『情報共有』『参加協働』3つの自治の原則に基づく自治基本条例が、昨年9月に制定されました。駐車場案内や受付までも議員が担当する姿に他市からの参加者が感動。議会主導、市民参加で創り上げたプロセスは、飯田市民の自治の力を象徴しています。市長が言うからではなく、市長の言うことが正しいと思うから行動する。『難治の地』飯田は自主自立の地です」(牧野)。

「自治基本条例に象徴される市民と自治体の協働の取り組み。自主的で個の確立した飯田の市民性。飯田市役所の自己適合宣言は、飯田の風土ならではの取り組みです」(齋藤)。

自らを律する自己適合宣言

「ぬるま湯からだんだん熱せられた湯の中で、とうとう死んでしまったゆでガエルの例が典型です。環境問題では、常に自分のおかれた状態を客観的に評価することが求められます。2003年1月23日、飯田市が行ったISO14001の自己適合宣言は、自らに大きな責務を課した挑戦です。特に内部監査が外部から、甘いと言われたら終わりです。外部審査のコストを理由に自己適合宣言を行う自治体も多いようですが、それは本末転倒です」(牧野)。

「飯田市は自己適合宣言のモデルケース。システムの透明性を担保するためにも、監査の規格ISO19011では、内部監査を重視しています。飯田市のように、内部監査にエネルギーを使うしくみは重要です」(齋藤)。

前向きと広がりを尺度にEMSのステップアップを

「環境首都コンテストでも、狭い意味での環境政策ではなく、自治体が持続可能な地域づくりをどのように進めているかが評価されます。持続可能性を考えると、人の循環をどうするかという視点が大切です。そして自治体がそのためにどのような貢献をしているかが試されます。環境改善の率先行動から一歩踏み出してどのように前向きな取り組みを行うことができるか。人の循環をつくる地域ぐるみの活動への広がりに、どれだけ貢献できるか。『前向き』と『広がり』。飯田市役所EMSのステップアップに向けた今後の課題です」(牧野)



点から面への活動へ自治体EMSのあるべき姿

「地域ぐるみ環境ISO研究会の歩みとともに飯田市役所のEMSは育ってきました。自己適合宣言も研究会の存在あってこそです。市役所が一事業所としてがんばっても、自治体本来の働きは果たせません。研究会の活動に参加して、地域全体面の取り組みに広がるのが、自治体EMSのあるべき姿です」(牧野)

緊張感を持ちながらやる気の出る監査を

「環境の取り組みも、内部監査も、最初から100点満点ははありませぬ。内部監査自身をPDCAのプロセスとしてとらえながら、継続的な改善を進めることが必要です。内部監査では、内部監査員の力量が問われます。好き勝手に発言したり、ただ厳しいだけの監査ではだめ。緊張感を持ちながらも、良い取り組みは評価をし、内部監査員と被監査部署同士が高めあう、やる気の出る監査が大事です。」(牧野)

自分の思想を伝える監査は教育機会

「内部監査員が伝えたいことを、監査の機会を通して相手が気づく。監査は教育機会ととらえることもできます。内部監査員にはしっかりした自分の思想と、それを相手に伝える力も必要です」(齋藤)。

7月9日から相互内部監査は始まります。飯田市役所のEMSから南信州のEMSへ、相互内部監査員として多くの皆さんの参加お待ちしております。詳しくは以下HPを参照のこと。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyosho/manage/index.html>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp





夏目光学本社とテクノロジーセンターを見学

「当社のエム・エフレンズは、光学機器だけでなく、半導体設備装置や通信機器、自動車関連、航空・宇宙関連部品など多くの先端産業の中心部分に使われており、なくてはならない存在として産業を支えています。レンズ加工は、屈折率を調整するために、光学ガラスには、金属が含有されました。そのためガラスを研磨する過程で排出される金属成分の処理など水質汚濁防止が課題でした。現在は、取引先のグリーン調達に合わせるために、材料、溶剤、梱包材などあらゆる製造過程で循環視点の取り組みを進めています。」



6月14日(木)地域ぐるみ環境ISO研究会の、事業所見学が行われました。見学先は夏目光学株式会社本社工場と、テクノロジーセンターです。冒頭は同社代表取締役社長、宮下忠久さんのあいさつです。1947年に創業した同社の主な業務は、先端分野に提供するエム・エフレンズの生産、販売。「医療現場で用いられるレーザーメスや内視鏡は、わずかな誤差が人の命を左右されかねません。エム・エフレンズは、...表面や形状の精度が厳しく求められる機器でこそ、その性能を...発揮しているのです。」(会社案内より)



2005年7月、飯田市川路に建設したテクノロジーセンターでは、10億分の1 = ナノの精度の製品を開発中。世界の工学技術発展の前衛基地ともいえる場所です。

千代最終処分場にも行ってきました

事業所見学会では、現在飯田市千栄地区に建設中の、一般廃棄物最終処分場も見学。

飯田市龍江地区にあるイタチガ沢最終処分場は、1988年供用開始。当初の計画では15年間の使用を予定していましたが、廃棄物の再資源化や減量化の取り組みの成果で、2009年度まで使用が延長されました。

新処分場は同年完成予定。51,256㎡の敷地の中に、埋め立て容量101,000m³の施設が建設されます。



これまで建設のために伐採された立木を、薪ストーブ利用者に対し無償で提供。提供した木材は約330 m³。88軒の家庭が1年間に使用する灯油の量に相当します。また敷地内に自生していた希少植物ミスミソウの移植作業を、地元小学生や自治会、公民館の皆さんの参加で実施。環境負荷の大きな最終処分場建設事業ですが、地元の皆さんと環境配慮の活動に取り組みながら建設が進められています。



事業所見学会は、普段見ることのできない他社の職場を見学できる、異業種ネットワークの研究会ならではの取り組みです。

不都合な真実上映中！「観る会」会員募集中

6月18日(月)午後6時30分から、中央通りの千劇シネマズで「不都合な真実」を鑑賞しました。

アル・ゴア氏の熱い講演と、地球温暖化のもたらす予想以上の影響を証明する映像。あっという間の1時間40分でした。

下伊那地方事務所環境課が事務局の「不都合な真実を観る会」に加入すると、映画館窓口で1,000円の割引料金で購入できます。

6月29日(金)まで毎日午後3時30分と午後6時30分の2回上映しています(木曜は休館)。詳しくは以下HPを参照ください。

http://www.pref.nagano.jp/xtihou/simoina/kankyosho/00_070605futsugou.htm

6月22日は、キャンドルナイトフェスタ南信州

6月22日は1年で一番昼の時間が長い日「夏至」。環境月間の6月を記念して、午後8時から10時までろうそくの明かりで夜を過ごす、100万人のキャンドルナイトが全国各地で行われます。

南信州の地では知久町2丁目のCAFÉIndustryを会場に、午後6時から、キャンドルナイトフェスタが行われます。「スローな夜を地元食材ですごそう」をテーマに1コインで料理とワインを食べながら語り合ったあとは、「キャンドルナイトウォーク」で夜の街を歩きます。詳しくは以下HPを参照ください。

<http://event.candle-night.org/detail.php?id=2093>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
 沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
 木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



地域ぐるみ環境講座 下伊那農業高校で開講

「地域の事業所の活動を通して、環境問題を身近に感じる機会とする。講座をきっかけに、地元こんな企業があるんだということを知る。自分の進路を考える材料にする。3つの視点でこの講座に臨んでください。」



6月18日(月)地域ぐるみ環境講座が下伊那農業高校で開講しました。3月15日(木)に開催された研究会代表者会で、同校生徒の皆さんの「土地利用から探る私たちの未来～鼎地区の土地利用と温度環境」を研究発表していただいたことが縁で交流が始まりました。

第1回目の今回は、オムロン飯田(株)：原瞳さん、(株)原鉄：原利尋さん、(有)CSI：桜井茂さんが講師です。食品化学科の3年生と、アグリサービス科の2、3年生約120人が受講しました。

まずは自分が取り組むこと オムロン飯田の発表から

「環境問題は、みんながやらなければ悪くなる一方ですが、『自分ひとりがやっても...』と思わないで、まずは自分が取り組みましょう。『ひとり』から始まり、『ひとり』『ひとり』が実行することで、みんなとなるわけです。」(オムロン飯田の原さん)



オムロン飯田からは同社の事業、地球環境問題、環境改善の取り組みについて発表していただきました。

生ゴミ処理機から始まる循環の取り組み、(株)原鉄

「生ゴミ処理機は、成分中に1500m/lあったBOD値を、50m/lにまで減らし、土になじみやすい状態にします。生ゴミを堆肥に変えるのは主に菌の働きですが、他の有機堆肥に比べても、成分バランスのよい製品ができます。契約農家で栽培した米は、通常1株が25分割程度のところ、32分割され、収穫量も1～5%増加します。」

親子で取り組んだ廃棄物の学習が、生ゴミ堆肥化の出発となった原利尋さん。機械の生産だけでなく、堆肥や農作物づくり、そして販売まで、循環の視点で取り組んでいます。

「地球温暖化の負の遺産を背負うのは皆さんです。循環、環境をぜひ自分の問題として取り組んでください。熱いメッセージもいただきました。」

人間に有益な影響を与えてくれる発酵菌

「菌には動植物に悪影響を及ぼす『ばい菌』だけでなく、発酵などを促し私たちによい影響を与えてくれる菌があります。酒、味噌、納豆などの食品は、私たち人間に疾病予防など有益な影響を与えてくれます。原鉄の生ごみ処理機は、糸状菌、細菌、放線菌を通常の百倍の密度に高め、それぞれの菌の連係プレーで堆肥化を進めています。」

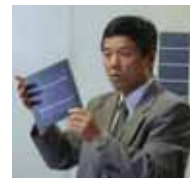
原鉄の生ゴミ処理機に投入する菌を提供する有限会社CSIの桜井茂さんからは、菌の働きについて教えていただきました。

次回7月は旭松食品(株)担当者から、食品加工について学びます。地域ぐるみ環境講座、次への広がりが期待されます。



三菱電機、白金副代表 (株)天龍で環境講演会

「京都議定書で日本は、1990年比6%の約束をしました。2005年の推計で産業界は5.5%削減の成果を上げていますが、家庭・業務では逆に40%も増加しています。家庭・業務の排出を抑えるためには、新エネ省エネの取り組みが必要です。太陽光発電は2005年現在、約30万世帯に普及し142万kwの電力を供給していますが、国は2010年までに約100万世帯、482万kwの普及を目指しています。」



6月25日(月)、(株)天龍で環境講演会が行われました。講師は地域ぐるみ環境ISO研究会副代表、三菱電機(株)中津川事業所飯田工場長の白金義康さんです。同社の創業記念日の事業です。

釣り具、ゴルフ用具、長尺パイプなどの製造販売を主な業務とする(株)天龍では、廃棄物の削減やエネルギー使用の低減などを表明した環境方針を定め、環境への取り組みも積極的です。

風、空気、水、光の技術を強化して、環境配慮型の製品作りを進める。三菱電機(株)中津川工場は、家庭・業務をターゲットに、環境貢献型設備機器の開発・製造を進めています。飯田工場では、全熱交換機能のある換気扇「ロスナイ」(空気の技術)や太陽光発電パネル(光の技術)の生産を進めています。太陽光パネルの生産は、年間4,000万枚、4万2,000世帯の家庭に電力を供給しています。

「ふるさとを次の世代に渡すために、環境問題に取り組んでいきましょう」。白金工場長のまよめのことばです。

研究会の活動から地域ぐるみの活動へ、また新しい環がつながりました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



のべ13,485人が参加 一斉行動週間結果まとまる

国際環境ディを記念し、地域ぐるみ環境ISO研究会の呼びかけで、6月5日から11日にかけて、一斉行動週間が行われました。

2月16日の京都議定書発効を記念した一斉行動に続いての取り組みです。今回は、取り組みやすさを考えて、期間を1週間に延長しました。

参加事業所は74。参加者はノーマイカー通勤が5,176人、ライトダウンは8,309人でした。

参加事業所は74。参加者はノーマイカー通勤が5,176人、ライトダウンは8,309人でした。

早朝ウォーキングで健康も ライトダウンで4.4t削減

「家族で地球温暖化について話合った」「家族で話し合いをしたところ、子ども



が玄関の電灯などを切ってくれるようになった」「家族で一つの部屋で過ごす時間を長くした」「早く消灯し眠るため、家族で早朝からのウォーキングを行った」

ライトダウンの取り組みが家族に広がることで、家族の絆が強まる効果もありました。ライトダウンによる早起きでウォーキングを行ったように、健康に結びつけられれば、継続した取り組みにもつながりそうです。

「何となく見ていたテレビを消した。どうしても見たいテレビ番組ではないのに見ていたことがよくわかった」「テレビやビデオ、娯楽目的での使用をやめた」「テレビのスイッチをオフにし、読書をした」。

生活のしかたを振り返る機会としても、大変有意義でした。

家族で取り組んだ参加者も ノーマイカーで11.4t削減

「家族でノーマイカーに取り組んだ」「営業、出張方面が同じ場合、乗りあわせをした」「ハイブリッドカーを使用した」「自動車に燃料改善装置をつけた」。

ノーマイカー通勤による期間中のCO2削減の推計値は11.4t。立地や公共交通機関などの条件で、多くの事業所では、日常的に取り組むことが困難です。今後一層取り組み方法を工夫することも必要です。



全店でネオンの消灯も 会社独自の取り組みから

「会社全体でビデオによる環境学習を実施した」「全社員で環境について話し合いをした」「広報誌で、関連会社にもPRを行った」「環境提案や標語を募集した」。学習会など意識づくりの取り組みも行われました。

「6/22～24の3日間、営業用ネオンと水銀灯の消灯を全店舗で行った」「蛍光灯の間引きをして消灯対策をした」「電球型蛍光灯を社員全員に配付し、家庭の照明の見直しを呼びかけた」。「日差しよけとなるように、窓際に朝顔の苗を植えた」「社有車のエアコン使用をやめた」「期間中1度は公共交通機関を利用するよう呼びかけた」。省エネルギーの具体的な行動にもつながりました。

「会社周辺の河川・道路・鉄道敷きなどの除草清掃など、環境美化活動に取り組んだ」。

事業所ごと、たくさんの創意工夫した取り組みが行われました。



ガソリン換算6,838リットル 1年で地球133周分の効果

期間中の行動で削減された二酸化炭素の推計は15.9t。この取り組みを1年間続けければ、825t。灯油換算で331,307リットル、18リットルポリタンク18,406本に相当します。ガソリン換算では355,584リットル。燃費15kmの乗用車で、533万3,762km。地球1周を約40万kmとすると、133周分です。飯田市新エネルギー省エネルギー地域計画で定めた削減目標値である66,103tに対する割合は1.25%。一人ひとりの行動も積み重ねれば、大きな力となります。

一斉行動を機会に、温暖化防止に向けて、多くの事業所や市民が、一歩進めた行動につながることを期待されます。



今回参加いただいた事業所は以下の通りです。(順不同、敬称略)

- アザーレックス(株)飯田工業(株)飯田クリーン(有)
- 飯田市環境技術開発センター(飯田精密(株)五十川商店(株)エヌ・イー/NSKマイクロプレジジョン(株)松川工場/勝間田建設(株)カムテップ(株)カリス/喜久水酒造(株)技建開発(株)北沢建設(株)桐林クリーンセンター(株)光精機製作所飯田工場/COA(株)飯田工場/COA(株)匠の里(株)三六組/山京インテック(株)シーテック飯田支店/下伊那郡岡村会事務所(有)竹原運送店/田中精機(株)多摩川精機エレクトロニクス(株)/多摩川ロジステック(株)(助)中部電気保安協会飯田事業所(株)天龍(有)ナカカ商事/長野三菱電機機器販売(株)飯田営業所/日進精機(株)有(福)清浄事業所(株)マイカル飯田サティ/マツカワモーターロニクス(有)松島産業(株)第2工場(株)丸久龍工工場(株)丸宝計器/ミサヤママイクロテップ(株)南信州広域連合事務局(有)宮口屋(有)森脇精機(株)山岸エーアイシー/ヨコタ(株)ヨシカズ/龍共印刷(株)レムキャスト(有)(有)アイエス精工/旭松食品(株)アース・グリーン・マネジメント/飯田商工会議所/飯田市役所/飯田信用金庫/井坪設備工業(有)エコトピア飯田(株)オムロン飯田(株)化成工業(株)木下建設(株)神稲建設(株)シチズン平和(株)信南サービス(株)多摩川精機(株)中部電力(株)長野支店飯田地区事業場/TDK飯田(株)トーエネック飯田営業所/夏目光学(株)南信共同アスコ(株)八十二銀行飯田支店/パチンコダイエーグループ(株)原鉄日本システム建設(株)飯田支店(株)マエダ/三菱電機(株)中津川製作所飯田工場/和産(株)吉川建設(株)

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



環境首都コンテスト 先進事例集で飯田が紹介

「...IPCCの第4次報告書によると、温暖化の危機はますます切迫しかつ大きな脅威になっていることがよくわかります。急務とな



った温暖化防止対策だけでなく、悪化する地球環境問題に対処し、かつ住民の本質的なニーズに対応するには、『持続可能で豊かな地域社会・エコシティ』を創ることが必須の要素として求められています。一方日本では国から地方への権限委譲が不十分で、特に財源的に苦しい状況が続いています。...地域を輝くものにしていくため、いま必要なのは、地域の特性を生かし、思い切ったことを、住民の参画を得ながら、実現に向けて挑戦していくことです。...先進事例集は、まさにそのような挑戦によって生まれた各地の事例を集めたものです。...」

環境首都コンテストを主催する環境NGOが、参加自治体の特徴的な取り組みをまとめた、先進事例集が発行されました。冒頭は、環境首都コンテストを主催する環境市民代表の枚本育生さんのあいさつです。

今年で第6回を迎える環境首都コンテストでは加点による順位づけとは別に、先進事例集が作成されます。先進事例は審査を行う環境NGOが、市民の目線から各自治体の特徴的な取り組みを評価するものです。第6回では、全国から66の事例が紹介。このうち、飯田市からは7例が取り上げられましたが、飯田市は事例の多様さで群を抜いています。

今号から何回かに分けて、飯田市の先進事例を紹介します。

地域を担う主体を育てる 飯伊婦人文庫の活動

「読書を通して見えないものが見えるようになる。女性たちが自立し、地域を担う主体となるために、読書運動を広めたい。」当時の教育長の信念と実践が読者層開拓の流れを生み出し、1957年、飯田中央図書館に「飯伊婦人文庫」が設立された。



一般的に図書館は、利用者のために資料を整えることがもっぱらの仕事と理解されているが、飯田市の図書館は、「読者層を育てること」に力を入れている。中央図書館には飯伊婦人文庫室があり、担当職員を配置している。市民がそこを会場として読書会を開く。市は文庫の事務局を担い、現在200人弱の会員への通知、年に1回文庫が発行する絵本作成のコーディネートなどを行っている。

当文庫代表は、「まず本を読む。そして書き記す。書き記したことを皆に話す。読書会という協働の取り組みを通して、自分以外の人たちの考えを知る。自分も仲間も豊かになっていきます。」と話す。かつての読書会運動に関わってきた70人から聞き取りを行い、婦人文庫の歴史を文章におこし、本を作った。その作業を通してのことばである。

公立民営、住民主体で運営されてきた公民館活動とともに、図書館を拠点に住民一人ひとりの生き方を豊かにしてきた読書会。これら社会教育活動は、この地の豊かな風土をつくる力の源である。

婦人文庫の活動は、「住民のエンパワーメントとパートナーシップ」の事例として紹介されました。

飯田市役所EMS 相互内部監査、始まる

環境影響評価や法令などの特定と目標への展開は適切か「市民・事業者などと協働し、地域ぐるみで持続可能な社会をつくります。」基本方針で示された市長の考えに基づいて進められている特徴的な活動を、賞賛事項として発掘し、評価すること。

本年度の重点監査事項に基づいた、飯田市役所環境マネジメントシステムの相互内部監査が始まりました。



最初の内部監査は下久堅自治振興センター。「下久堅小学校の樹齢700年の桜が開花しませんでした。県の文化財に指定されたこともある、市内で3、4番目に古い桜を守ろうと、『知久平城址梶郭の桜』と命名し、環境整備に取り組んでいます。」宮内センター長から報告された、下久堅自治振興センターの、特徴的な地域ぐるみの取り組みです。

相互内部監査員として、地域ぐるみ環境ISO研究会から、TDK飯田株の林保治さんが参加。緊張感をもった監査が行われました。

今年の内部監査は8月7日まで57の部課等で行われます。内部監査の詳細は、以下HPを参照ください。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/manager/index.html>



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



環境首都コンテスト先進事例 南信州飯田の取り組みから

今回のぐるみ通信は、2006年環境首都コンテスト先進事例集に掲載された、飯田の先進事例を紹介いたします。

よこね田んぼ保全事業

「よこね田んぼ」は、飯田市千代地区に広がる、約3ha、110枚の棚田である。千代地区では、農家の高齢化が進むにつれて棚田の維持管理が困難になり、休耕田が増えるようになった。そんな中、「よこね田んぼは残すべき」と地域の自治組織が動き出した。当初は地権者の理解が得られず、対策は進まなかったが、地域の区長さんが地権者を1件1件めぐって理解を求め、ついに1998年2月に「よこね田んぼ保全委員会」がたちあがった。委員会は田んぼを借り受け、保全を請け負っている。



地域自治を重んじる飯田市。よこね田んぼの保全に関して、市は地権者と保全委員会の調整や、棚田を通じた食育の推進と楽しい交流行事による地域活性化を目的とした「案山子コンテスト」の実施とPRなど、事務局として保全委員会をサポートしている。そのような地域と行政との協働もあり、各地からの体験修学旅行の受け入れや、畦づくり、田植え体験などの体験学習・交流事業も活発になった。「子どもも大人も関係なく、泥まみれになって感動を共有する場所」と土地の人が語る「よこね田んぼ」は、棚田の景観を守り、後世に引き継ぐための環境学習フィールドとしての活用を通して保全されている。

よこね田んぼ保全事業は、「環境・まちづくり学習」の事例として紹介されました。

議会主導の自治基本条例

自分たちのまちは自分たちでつくっていくという、地域主権的な考えが広まりを見せている。そんな中、飯田市議会は、より市民に開かれた、活動する議会となり、新たな活動を提案できる議会となることを課題に掲げた。まずは超党派による「議会あり方研究会」を設置し、現状の課題の抽出に努めた。この研究と議論を通じて、改めて行政のあり方や住民との関わりについても明確にしていく必要性を認識したことで、自治基本条例を市民全体の代表者たる議会の発案で制定することになった。

自治の担い手である市民、その代表者たる議会、そして行政。これらの主体が手を携えて条例制定に臨むべきであると考えたことから、議会が「市民会議」を設置。この会議では条例制定に向けた研究を行い、議会に答申書を提出した。それをもとに条例の制定の基本理念をまとめた上で素案づくりを行った。市長や市民に内容検討を依頼すると同時に地区説明会も自らの手でいった。



こうして4年の歳月をかけて条例は制定された。制度的には本来あるべきスタイルを踏んだだけでもいえるが、まだまだ議会発案の立法はきわめて少ないのが現状。議会自らが汗をかき、自身の見識を深め、自治体の憲法たる自治基本条例を制定した数少ない取り組みとして注目に値する。

議会主導の自治基本条例は、「住民のエンパワーメントとパートナーシップ」の事例として紹介されました。

地域と連携して取り組む ノーマイカーデー

「飯田市公共交通活性化プログラム」では交通需要の発生を抑制するビジョンを策定。また新エネ・省エネ地域計画で自動車利用抑制によって2010年までにCO2を1990年比で6,121t削減する数値目標を掲げ、2004年に市と市内8事業者とで「ノーマイカー推進方策研究会」を組織し月例会で検討を重ねてきた。2005年10月のノーマイカー通勤推進月間に実施したノーマイカー通勤には、38事業所から1,511人が参加し、自動車使用で86,000kmを削減。CO2で60tの削減効果を上げた。2006年5月からは通勤以外のエコドライブに取り組み、参加事業所は98社から6,193人、同年10月には106社から9,156人と回を重ねるごとに拡大し、CO2で推計105t削減を記録した。



飯田市も事業所の一員である「地域ぐるみ環境ISO研究会」もエコドライブの取り組みに組織をあげて参加。自動車使用抑制の意義が着実に地域に定着してきている。この取り組みを地球温暖化防止に結びつけるために大雑把であってもCO2削減量として数値化し、毎年積み上げて公表することで、さらに参加者を拡大させている取り組みは注目に値する。

地域と連携して取り組むノーマイカーデーは、「まちづくりと一体化した交通政策」の事例として紹介されました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



ペーター・リンメルさん 独ウルム市から飯田に赴任

「ウルム市はドイツ国内で、フライブルク市と環境先進都市を競っています。CO2の排出量は2020年までに



1990年比で50%削減を目指しています。バイオマスの分野では、木材の廃材を利用したエネルギー供給プラントを建設し、市内2万戸の家庭に温水を供給するとともに、バイオマス発電にも取り組んでいます。太陽エネルギー研究の財団を、ウルム市とお隣のノイウルム市が共同で支援しています。特にパッシブソーラーシステムの導入に積極的で、2000年に行われたハノーバー万博のモデルハウスを市内に移転し、108戸が入居する共同住宅と、40戸の戸建て住宅を建設しました。」

7月23日(月)午後6時から南ドイツウルム市から飯田市役所に交流職員として赴任した、ペーター・リンメルさんの報告会が行われました。

2005年10月飯田市で開催された日独地域国際化サミットが縁となり、ウルム市との交流が始まりました。ペーターさんは、6月から初の交流職員として来日、現在環境課に籍を置き、飯田市政やまちづくりについての研修を進めています。昨年までベルリンに21年在住、豊丘村にIターンした足立啓司さんに通訳を務めていただいています。

ペーターさんは37才。ウルム市では都市計画担当で、日本の都市計画、特に計画策定にあたり、市民同士や市民と行政の合意形成について学んでみたいそうです。188cmの長身でバイオリン演奏が趣味。謙虚で落ち着いた人物です。

自治の気概の市民性 ムトスの飯田とどこか共通

ウルム市は南ドイツ、バーデン・ヴェルテンベルク州、ライン川流域に位置する、人口12万人の都市です。緯度は樺太と同じで、1月が2.5、8月が17と、平均気温は飯田よりずいぶん低めです。

パリのエッフェル塔ができるまで、しばらくの間世界一の高さを誇ったゴシック建築、ウルム大聖堂が有名です。また、世界的な物理学者アインシュタインの出生地としても知られています。



市内には学生数7,000人、工学、情報科学、数学、経済、医学、自然科学などを教える総合大学、ウルム大学があります。同大学の研究室を中心に、1980年代から、自動車大手ダイムラークライスラー社や電機大手AEG社など、多くの企業の研究所が立地、研究都市計画が進んでいます。

ウルムのまちは854年に歴史に登場します。1,170年、国王に支配されない、市民による自治都市となり、1,397年、ドイツで初めての市民憲法を制定しました。

「ウルム市の市民は、自治の気概を持っています」「はじめて飯田を訪れたとき、伊那谷の雄大な自然に驚きました。そして飯田の人たちと交流するうちに、社会構造にも共通したところがあると感じるようになりました。出会う人たちが大変親切であることも印象的です」

ムトスのまちづくりを進める飯田とは、どこか風土が共通しているかもしれません。

ウルム市との交流を通して 持続可能な地域づくりを

「第2次世界大戦で、中心市街地の81%が消失し、1,710人が犠牲になり、25,000人が住宅を失いました。戦後ウルム市は新たなまちづくりを始めました」。日本と同様、荒廃した国土の復興から戦後のまちづくりは始まりました。

「戦後の開発は、街中まで入り込む、大規模道路の建設を核に進められました。しかしモータリゼーションの結果、飯田と同様に中心市街地の空洞化が進みました。私が現在ウルム市で関わっている都市計画の仕事では、中心市街地でどのようにしたら心地よく住むことができるかをテーマに計画づくりをしています。中心市街地には新たに公民館、図書館、博物館、音楽ホールなどを建設し、街中の魅力を高めようとしています。市民の声を聞きながら、暮らしが息づく地域をつくりたいと仕事を進めています」。

飯田市でも現在、中心市街地を活性化するための市民と行政が協働した話し合いが進められています。

ドイツの風を飯田に取り込み土とする。南信州のまちづくりに生きる形でこの交流が発展することが期待されます。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



生徒各自が環境影響評価 下農で地域ぐるみ環境講座

「生活の中で、自分の行動が環境にどのような影響を与えているのか。一人ひとりが考えながら、環境をよくしていく活動をしてください。将来仕事に就いたときにも、ぜひその取り組みを続けてください。」

7月25日(水)下伊那農業高校で、2回目となる地域ぐるみ環境講座が行われました。

冒頭は「オムロン飯田株の環境改善活動」をテーマに発表した同社吉川瞳さんのことばです。

「事業所は、やみくもに環境改善活動をしているわけではありません。Plan Do Check Actサイクルの取り組みを進めています。この活動を進めるときに一番大事なのは、計画づくりです。会社の行う活動で悪い影響、良い影響を調査する。」

その中から特に影響を与えるものを選ぶ。取り組む目標を決める。そんな手順で考えてみましょう。影響を調査するときは、活動を行うために消費するものと、廃棄するものという2つの視点から考えるようにしましょう。」

吉川さんの説明を受けて、参加者一人ひとりが志望する職業に就いたケースを想定し、環境影響評価を行いました。

「仕事中使用するエアコンによる電気消費を節約するために、エアコンを使わないようにします。」「通勤に使う車による燃料の消費を押さえるため、歩いて通います。栄養士を志望する生徒による環境影響評価です。」



40人の生徒の皆さんの熱心な受講姿勢に、発表者もつい熱が入ります。

日量2,000tの水を浄化 旭松食品の環境改善活動

「『選穀 洗浄 浸漬 煮沸 分離 凝固 凍結 熟成 解氷 乾燥 検査 包装』1日約20tの大豆を使用、こうや豆腐のできる過程です。当社は昭和25年に設立、凍り豆腐、納豆、みそ汁などの加工食品を製造しています。最近では介護食も手掛けるようになりました。」

二人目の講師は旭松食品株の安藤正和さんです。

同社では、原材料などの廃棄の際、環境負荷を軽減するために、様々な取り組みを進めています。廃プラスチックはリサイクルの用途別に7種類に分別しています。2000年9月には、飯田工場の焼却炉を廃棄して、ごみの焼却をやめました。加工のために1日2000t、50mプール2杯分の地下水を使っています。河川に負荷をかけず、排水を効率的に処理するために、1991年5月、高濃度廃液の高効率処理(UASB)設備を導入しました。1996年2月には、バクテリア分解に伴う爆気方法改善の設備を導入。2006年秋にはUASBから発生する硫化水素を分解するために、オゾンを利用した脱臭装置を設置。年間600t発生する汚泥を有効活用するために、契約農家に有機肥料として提供、できた野菜を社員に分配し、地産地消の取り組みを進めています。年間2,000t発生するおからのうち90%はキノコ培地に、残りも、ネコ砂、つり餌、ペットフードとして活用しています。河川清掃や地域のごみ拾いなどの地域活動も進めています。

ご親兄弟全員が同校OBの安藤さん。生徒の皆さんも先輩の話に聞き入っています。



和気あいあいとした講座 次回は工場見学です

7月7日、結婚したばかりの吉川さんには、下農生徒の皆さんから花束をプレゼント。安藤さんも生徒が加工したりんごジュースなどをいただきました。



しっかりノートに取る熱心な下農生徒の皆さんの姿勢にたいし研究会実務者もつい熱が入ります。緊張感を持ちながらも和気あいあいとした雰囲気であつという間に2時間がたつてしまいました。



次回は旭松食品の工場見学、最終第4回は、水資源についての話です。アースグリーンマネジメント株の代田勇さんが、食料などに含まれる水資源、アウトオブウォーターについて、飯田市役所水道課の棚田昭彦さんが、水道水ができるまで話します。

地元の事業所と学校を結ぶ今回の取り組み、これからの広がりが期待されます。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



飯田市役所EMS 相互内部監査が行われる

「飯田市のEMSの取り組みは、ISO14001に則った『自己適合宣言』として確実に向上している。そのことを相互内部監査で担保していることは、自らを律することであり、高く評価できる。軽微な文書の不適合はあったものの、総じてISO14001規格の要求事項を満たしていると判断できる。」(環境管理責任者)

「飯田市役所のISO14001の取り組みは着実に向上している。それはシステムと取り組みの内容の双方においていえる。特筆すべきは、賞賛事項であげた環境への地域ぐるみの取り組みである。反面、各部署の優れた取り組みが全体として、しっかり把握・管理されていないため、効果的な継続的改善につながっていない。この点は改善を要する」(事務局)

7月25日(水)、飯田市役所環境マネジメントシステム環境管理責任者及び事務局の相互内部監査が行われました。冒頭は内部監査の総合評価です。



2003年1月23日、日本の自治体として初めて自己適合宣言に移行した飯田市にとって、相互内部監査はシステムの客観性、透明性を担保するために最も重要なしくみです。

本年度の内部監査は、7月9日から8月7日にかけて51の部課等で実施。相互内部監査員37人、オブザーバ36人の皆さんに参加いただいています。相互内部監査員、オブザーバのほとんどは地域ぐるみ環境ISO研究会のメンバーです。飯田市役所の自己適合宣言は研究会に支えられています。

環境マネジメントシステムは、システム全体をPDCAサイクルで動かすだけでなく、ここの項番に対してもPDCAの視点を持って継続的な改善を進めることが必要です。

初めての試み～相互内部監査員による環責、事務局監査

今年は相互内部監査に向けて、2つの新しい試みが行われました。

1つは内部監査に先立ち実施したトップインタビューです。6月15日(金)、オーディックスレジストラ社の齋藤喜孝さんをインタビュアーに招いたトップインタビュー。「市民・事業者と協働し、地域ぐるみで進めている、特徴的な取り組みを、賞賛事項として発掘し、評価すること。」トップインタビュー、牧野光朗飯田市長の発言を受けて、重点監査事項が指示されました。



2つめは環境管理責任者と事務局の監査を、組織外部の相互内部監査員だけで実施したことです。環境管理責任者のチームリーダーは吉野匡子さん(所沢市)。主任審査員の近藤明人さんもメンバーです。オブザーバとして上田市からも参加。事務局のチームリーダーは沢柳俊之さん(多摩川精機)。山崎淳之さん(上田信用金庫)、原山恵徳さん(長野市)、川合吉雄さん(新城市)もメンバーです。上田ISOネットワーク、上田市、長野市からもオブザーバが参加。相互内部監査員は全員環境マネジメントシステム審査員有資格者です。

自己適合宣言から足かけ5年が経過した飯田市役所の環境マネジメントシステム。ISO14001規格の要求事項との適合を、第三者の目で確認する機会としての試みです。

同じ組織にいるとなかなか気づくことのできない側面から、たくさんの指摘をいただきました。

相互内部監査のしくみが、研究会に参加する事業所同士、あるいは他の自治体に広がることができれば、相互内部監査の実を高めることにつながります。自己適合宣言や相互内部監査の環の広がりが期待されます。

首都コン先進事例集 ぐるみ通信が紹介されました

2007年環境首都コンテスト先進事例集で、地域ぐるみ環境ISO研究会の機関誌「ぐるみ通信」が先進事例として紹介されました。紹介された内容は以下の通りです。

「ぐるみ通信」は、持続可能な地域社会づくりをめざし、飯田市内の30の事業所がともに環境マネジメントシステムなどに取り組む「地域ぐるみ環境ISO研究会」が発行するメールマガジン。

飯田市は本研究会の事務局の一員として情報発信分野を担い、本通信を作成。2001年2月からスタートし、2007年3月までに212号が発信されている。本通信は研究会の機関誌としての役割にとどまらず、全国へ向けた地元情報の発信媒体としても機能している。

その内容は研究会の活動報告、EMSの情報、市役所の環境政策や地域の環境活動など多岐にわたり、ほぼ週1回のペースで発信、タイムリーな情報提供が可能となっている。「ただのニュースではなく、参加事業所を応援するつもりでつくっている」と担当者は語る。ともに送られてくる四季折々の飯田市内の写真も、市内外1,100人にも上る購読者にとって魅力の一つだ。

飯田市が京都議定書発効を受けて取り組んでいる温暖化防止の事業に対しても、本通信は参加呼びかけとともに、実践のための理解へとつなげる情報媒体として機能している。...

8月2日(木)から5日(日)、いいた人形劇フェスタ2007が行われます。1979年国際児童年に前身の人形劇カーニバル飯田が開催されてから今年で29回目。30回の節目の年となる来年は、3回目の世界人形劇フェスティバルが開催されます。今年には国内外から256劇団が参加。300を超えるステージで人形劇が上演されます。飯田の夏の風物詩となつたいいた人形劇フェスタ。ぜひ参加してみませんか。詳しくは以下HP参照。

<http://www.iida-puppet.com/>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機) 研究会事務局

toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



ISO14001 内部監査員養成コース開催

環境マネジメントシステムに取り組む組織にとって内部監査は、システムの有効性や規格への適合を確認するための大変重要な機会です。



ISO14001内部監査員養成コースが9月20日(木)21日(金)それぞれ9:00から16:00まで、飯伊地域地場産業振興センターで開催されます。飯田の地では初めて行う試みで、主催は財団法人飯伊地域地場産業振興センターと地域ぐるみ環境ISO研究会です。

「環境マネジメントシステム構築の必要性」「ISO14001の要求事項解説」「環境マネジメントシステム監査の実施方法」「演習ケーススタディ」「指摘事項の書き方」などを学びます。

講師は齋藤喜孝さん。齋藤さんは、昨年9月当研究会が主催した研修会「経営に役立つ環境監査」の講師で、6月15日(金)牧野飯田市長に対するトップインタビューのインタビュアーも務められました。日本適合性認定協会(JAB)の環境マネジメントシステムの立ち上げ/発足に深く関与。日本で初めて国際規格の環境マネジメントシステムに取り組んだトヨタ自動車と新日本製鐵の立ち上げ/審査を担当。審査実績約1,000件の豊富な経験を生かした、わかりやすく実践的な解説をしていただきます。

参加費は20,000円(テキスト教材含む)。参加希望者は9月7日(金)までに、所定の様式に記入の上、FAXで地場産業振興センターにお申し込みください。

組織の内部監査員の養成や、環境マネジメントシステムを理解する機会としてぜひご参加ください。

tel 0265-52-1613 fax 24-0962

首都コン先進事例から パートナーシップ型環境エ ネルギー事業

飯田市は日照条件が良く、2004年度に策定した「新エネ省エネ地域計画」においては、太陽光発電システムを全世帯の30%普及させる目標が掲げられている。

2004年度、市が「環境と経済の好循環のまちモデル事業」に採択されたことから、...バイオディーゼル燃料の普及啓発などを行っていたNPO法人南信州おひさま進歩を母体として、官民パートナーシップで準公益的事業を進める「おひさま進歩エネルギー有限会社」が設立された。

事業内容は、太陽光発電と省エネルギーサービス(ESCO)である。太陽光発電は保育園や公民館を中心とした公共的施設38ヶ所に合計208kwが取り付けられた。施設側は事業会社に屋根を無償で提供し、太陽光により事業体が生産した電気を施設が買い取るしくみとなっている。市は、政策として電機の買い取り価格の長期保証を行い、この事業の安定性に寄与している。また、初期投資を行い、省エネとCO2削減が実現できるESCOサービス事業を2005年度、2006年度は公共と民間あわせて12件の市内の施設に導入。太陽光とESCOの事業資金としては全国230人の市民からリターンもある「市民出資」として総額2億150万円を集めた。



こうしたハード面のみならず、太陽光発電を設置している施設で、点灯式を園児や保護者とともに開催した。キャラクター「さんぼちゃん」とともに、子どもを対象にした劇仕立てによる環境教育を行い、省エネの意識付けにも取り組む...

西川禎一さんの一人芝居に 聞き入りました～いいだ人 形劇フェスタ

「私の生まれは明治45年、亡くなったのは昭和39年。私の人生をお話しします」。8月3日(金)夜7時から、伊賀良公民館で夜のカーニバルが行われました。子ども対象の文化と捉えられがちな人形劇を大人たち自身も楽しむものにしようと、20年ほど前からいいだ人形劇フェスタの期間中に開催しています。

冒頭は西川禎一おひとり座による「ばあさんの一人語り『まあ聞いてくれやす』」からの引用です。西川さんは京都生まれの京都市育ち。上方風の語りと繊細な人形遣いとして独特な人形世界を創り出してきました。人形劇団京芸から独立。一人芝居の先駆的な存在です。



近所の子守りをしながら食い扶持を稼いだ大正時代。夫を戦争に取られ、女手一つで子どもたちを育てた戦中。食糧難を生き抜いた敗戦後の復興期。西川さんの操るばあさんの語り引き込まれ、幼児たちもじっと聞き入ります。

「親や年寄りが昔語りを子どもたちに聞かせる。そんな文化が絶えています。この公演で、小さな子どもたちまでが私の話に聞き入ってくれたことに感心。これも飯田の人形劇文化のたまものでしょうか」。西川さんの感想です。人形劇フェスタの奥深さを改めて感じる機会でした。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精織株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



環境とまちづくり APUが南信州で調査活動

「現在の南信州いむす21は、会社など組織の取り組みです。環境改善活動を広げ、地域ぐるみの活動にするために、地域版のいむす21をつくったらどうでしょうか。」



8月4日(土)から9日(木)にかけて、大分県別府市の立命館アジア太平洋大学(以下APU)から12人の学生の皆さんが飯田を訪れ、「環境とまちづくり」をテーマに調査を行いました。APUによる飯田調査は昨年に続き2回目。「エコツーリズム」がテーマの昨年に対し、今年は「環境とまちづくり」。冒頭は、研修成果の報告を行う学生からの発言です。

現場や市民との交流を大事にした教育方針を持つAPU。今回の研修も、フィールドスタディ「まちづくりと環境政策」というプログラムで、正式な単位となる科目です。

研修に先立つ7月4日(水)は飯田市職員が講師となり、飯田市のまちづくりや環境政策についての事前学習会を実施。今後は研修成果を整理し報告書を作成。10日9日(火)同校に牧野光朗飯田市長が参加、最終報告会が行われます。

8月4日(土)5日(日)は「学びの風土」がテーマ。いいだ人形劇フェスタの取り組み現場、飯伊婦人文庫の皆さんや丸山公民館委員の皆さんとの交流を行いました。6日(月)7日(火)のテーマは「環境政策」。地域ぐるみ環境ISO研究会参加事業所や、南信州いむす21取り組み事業所の訪問、新エネルギーの取り組み現場などを視察。

キーワードは「循環」～南信州いむす21事業所訪問

「取り組みにあわせて焼却炉を廃棄。現在は工場からの排出物も資源と捉えるようになりました」(株)ヨシカズ藤本和明社長。「各店舗から排出された資源をリサイクルし、循環型商店街を目指しています」(ガーデンズ4青山幸弘さん)。「自社益だけの活動から地球環境保全に視野が広がりました」(株)イダサービス林麓社長。「EMSを自社の取り組みから地域の取り組みへと広げたいと考えています」(飯田クリーン(有)相津博人専務)。



6日は2グループに分かれた活動。Aグループは南信州いむす21に組み込む4つの組織を訪問。「循環」「地球益」「地域益」というキーワードが見えてきました。Bグループは研究会参加事業所のシチズン平和時計(株)、飯田信用金庫、パチンコダイエーグループ、(株)アースグリーンマネジメントを訪問。各社の進めるEMSの取り組みや、研究会への思いなどをお聞きしました。

7日は飯田市のエネルギー政策についての研修。「太陽光市民共同発電について」(おひさま進歩エネルギー(有)原亮弘社長)。「循環型農業について」(市農業課林優一郎さん)などの話をお聞きしたあと、太陽光共同発電設備を設置した信毎販売(株)飯田支店と明星保育園や飯田市堆肥センターを訪問。最後は研修後半の宿泊拠点、エコハウス「風の学舎」を運営するNPO法人、いいだ自然エネルギーネット山法師の平沢和人事務局長から、カーボンニュートラルに向けた実践を伺いました。

次世代育成と地域ぐるみの活動を面的に広げるために

「まちづくりを中心となって進める次世代の人材を、どう養成するか」「環境問題に対する取り組みを、どのようにしたら、より多くの市民が参加する地域ぐるみの運動に広げることができるか」今回の研修で飯田市が学生に与えた課題です。JICA研修生の受け入れなど、国際的にも注目されている公民館。首都コン先進事例として紹介された飯伊婦人文庫など、飯田の豊かな学びの風土をどう次世代につなげるか。事業所の点のから地域ぐるみの面の取り組みを目指した環境改善活動を、どのようにしたら一層広げることができるか。新しい発想を期待しての課題です。

南信州いむす21の土台として地域版いむすをつくる。南信州いむす21の対象を地区単位の取り組みに広げ、住民一人ひとりの活動をマネジメントすることで面への広がりを図ろうというのが冒頭の提案です。

「一人住まいのお年寄りのお宅にゆいターンの若者が間借りし、お年寄りの世話をしながら地域とふれあう。それを住宅問題の解決にもつなげる」。次世代育成に向けた提案の一つです。



10月のまとめに向けてこれらの提案がブラッシュアップされ、未来の飯田のまちづくりにつながることが期待されます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



山本地区で活動中 モニタリングサイト1000

地球温暖化など世界の環境の悪化は、生態系にも影響を与えています。生態系の変化はすぐに気づくものばかりではなく、知らない間に深刻となる場合があります。変化をいち早く捉えるためには、長期にわたる調査、観測が不可欠です。

日本全体を気候や地形の違いにより10区域に区分。森林、草原、湿原、河川湖沼など、10の生態系タイプごと全国で1000の調査地を定め、100年以上にわたる長期観測を行う。環境省が進めるモニタリングサイト1000の取り組みです。



8月19日(日)飯田市山本地区で行われたモニタリングに参加しました。森の中を歩きながら参加者同士、発見した植物を記録しています。主催ははなのき友の会。ハナノキは数千年前に出現したカエデ科の樹木。直径1m、樹高30mにもなります。清水がわき出る小湿地に生育。開発により湿地がどんどん狭められていることから絶滅危惧種に指定されています。

同会は、1993年「ハナノキとハナノキ湿地を保全して生物多様性に貢献する」ことを目的に発足。山本地区のモニタリングは今年4月から開始。毎月第3日曜日に実施しています。一人ひとりの参加者は驚くほど博識で、細かな特徴も見逃さず、植物の名前を特定していきます。在野の市民が調査者となり、息長く行う地道な調査活動。ぜひ広げていきたい取り組みです。

48カ国201人の環に JICA研修、飯田で開催

「不衛生な水のために、病気に苦しむ地域がありました。きれいな水を提供するために、ある国がその地域の至る所に井戸を掘ってあげました。けれどもその井戸は使われません。そこに住む人たちが、健康になるためには井戸水を使うことが必要であると知らなかったから」。

第3世界といわれる国々の発展のためにこれまで多くの国やNGOが支援活動を進めてきました。けれども支援が終わったあとまで成果が続きません。

JICA主催の参加型地域社会開発の現地研修が8月20日(月)から24日(金)飯田で開催されています。本当にその国や地域に支援が定着するためには、そこに住む人たちが自身が地域の問題に気づき、解決に向けて行動することが必要です。



公民館活動から出発し、住民主体で古墳の保存やギフチョウの保護活動を進める竜丘地区。「十三の郷～鎮守の杜構想」。集落ごとに将来計画を定め、住民による自治活動が根づいている上久堅地区。住民自治と行政の支援、住民と行政の協働が見事に進められている都市飯田市。そういう評価をいただき、1997年から国内唯一の現地研修を受け入れています。これまで48ヶ国201人の研修生が参加。プログラムをコーディネートするのは日本福祉大学の太田裕准教授です。

受け入れ側の飯田にとっても「参加」の意味を考える貴重な機会です。

住民主体で上水道づくり 比レガスピ市より研修生

フィリピン、ルソン島、メトロ・マニラ北部にあるレガスピ市。日本でいう村=パランガイ「プロ(109戸)」「エスタンザ(83戸)」2地区で住民と行政が協働し、上水道施設づくりを進めています。JICAによる参加型地域社会開発の取り組みです。



8月20日(月)から23日(木)レガスピ市から政府、市職員、NGOスタッフの一行5人が来日し、JICA研修に参加。23日(木)には竜丘公民館で、フィリピン出身者や飯田で外国籍市民との交流を進めるメンバーとの意見交換が行われました。2005年から進められているこのプロジェクトでは、延べ13人の研修生が来日。飯田からも市民や市職員8人が訪問し、現地のプログラムの支援を進めています。

「これまでは支援が終わったあとまで取り組みが続きませんでした。フィリピンには住民がボランティアな立場で公共的な活動に参加する風土がありません。飯田の市民の皆さん自らが、公共財産を管理する姿に感銘。できることから飯田の取り組みを取り入れていきたいと思います」。レガスピ市社会福祉開発部エレナ・P・ホモさんの発言です。

家族のつながりを大切にするフィリピンの文化。互いの良いところを学びあう末永い交流となることが期待されます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



研究会実務者会開催 南信州いむす21の 継続的改善のために

「訪問現場で行った提案が、実際の取り組みにどのように生かされているか、フォローも必要です」。

8月29日(水)飯田市役所で地域ぐるみ環境 ISO 研究会実務者会が行われました。



6月11日から、南信州いむす21に取り組む42の組織にたいする訪問支援を行いました。「自分たちの取り組みの水準を知り、他の組織の取り組みを参考にするために、組織同士で情報交換する機会がほしい」「困ったときの相談窓口を明確にしてほしい」。訪問組織から共通した要望がありました。「商店街の取り組みなどに合わせた、初級、中級、上級の現システムとは別のしくみをつくったらどうか」「取り組みに必要な環境側面、法令、目標管理、役割分担などの文書化のフォーマットを作成提供したらどうか」。南信州いむす21のシステム改善に対する提案も発言されました。

システム改善、取り組み組織への支援方法などは、改めて事務局会議で方向付けて、提案します。

内部監査員養成コース 定員集まる

9月20日(木)21日(金)地場産業振興センターで行われる、ISO14001 内部監査員養成コース。募集定員25名に達しました。多くは研究会事業所からの参加です。次年度にもぜひつなげたい企画です。

9月29日(土)は里山作業 木の実集めにも協力を

10月27日(土)28日(日)、今年も鼎体育館、同文化センターで「生活と環境まつり」が行われます。研究会は今年もクラブ細工で参加します。

9月29日(土)午前中、竜丘地区臼井原にある、竜丘地区財産区の区有林で、間伐作業を行います。山での作業は日頃とは違う力を使います。森の中でのリフレッシュ、あなたも参加してみませんか。



どんぐりや松ぼっくりなどの木の実も集めています。こちらでもぜひご協力ください。

間伐作業の詳細は、改めてお知らせします。

10月25日(木)から1週間 エコドライブ推進週間です

生活と環境まつりにあわせて、研究会が主催する、エコドライブ推進週間を行います。京都議定書発効記念一斉行動(2月16日)、環境の日一斉行動週間(6月5日から11日)に続く、今年3回目の一斉行動です。

期間は10月25日(木)から31日(水)。詳細は改めてご案内します。温暖化防止に向けた行動の環に、あなたも参加しませんか。



第3回悩み事相談会 テーマを募集しています

1/23,5/22 に続く悩み事相談会を開催します。これまでは環境側面、法令、教育訓練など、ISO14001 規格に関わる各組織の悩みや課題をテーマとしてきました。11月開催予定。次の相談会のテーマを募集します。お気軽に事務局までお寄せください。

参加事業所を募集中 いいた温暖化防止の環

市民、事業者、行政が協働して地球温暖化防止に取り組むネットワーク「いいた温暖化防止の環(略称い環)」が10月1日に発足します。母体は飯田市環境協議会。太陽光発電や木質バイオ、商店街 ESCO など新エネ省エネ活動の事業化や、温暖化防止の一斉活動、3Rの推進など、意識啓発や環境教育活動を進めるネットワークです。地域ぐるみ環境 ISO 研究会としての参加も予定していますが、各事業所としての参加も募集しています。い環に入り温暖化防止の環を広げませんか。申込み、照会は事務局の飯田市役所環境課まで。

Tel 0265-22-4511 内線 5247。

染谷武男さんを迎えて BDFを知る研修会

BDF に先進的に取り組む墨田区の有染谷商会 染谷武男さんを迎えた研修会を行います。テーマは「バイオディーゼル燃料の利用で始まる、人の営みと自然、環境が調和したまちづくり」。9月15日(土)13:30~15:30、飯田市環境技術開発センター。詳しくは以下 HP 参照のこと。
<http://www.city.iida.nagano.jp/kanky/iec/bdf/>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



地域ぐるみ環境講座 下農生徒が旭松食品見学

「食品産業に就くものにとってけがや病気には細心の注意が必要です。自分自身の健康管理、手洗いの励行、決められたことを守る。この3つが原則です」。8月31日(金)旭松食品(株)天龍第一工場(飯田市駄科)で、下伊那農業高校、地域ぐるみ環境講座第3講が行われました。同校食品化学科の3年生39人が藤本先生の引率で参加。冒頭は同社岡田宏本店総務部長のことばです。



生の味噌を使ったインスタントみそ汁『生みそずい』。独特のおいしさを抑える菌を使い関西に納豆文化を広げた『なっとういち』。生産、流通を調整し、オンデマンドで消費者の要求に応える『旭松フレッシュシステム』。創業1950年。57年目を迎える同社では、新しい製品や仕組みづくりに取り組みながら、国内一の生産量を誇るこうや豆腐、納豆、即席みそ汁、3つの主力商品を中心に事業活動を進めています。

ISO14001は1999年、飯田工場で認証取得。2006年ISO9000を全社で取得したことをきっかけに、品質と環境を統合した取り組みを模索しています。

VTRによる学習のあと、工場へ。原料となる大豆投入から始まる生産工程、排出されたおからの再資源化の取り組みなどを外から見学しました。

地道な取り組みの積み重ね 環境環境改善活動

見学後、生徒の皆さんが準備した質問に対し、岡田部長、松下工場長、研究会実務者の安藤さんが答えます。

(Q)おからの食品としての再利用は

(A)皆さんが考えているおからと比べ、想像できないくらい栄養分をしばりとして再利用しています。主な利用方法はきのこの培地。一部にネコ砂に利用。皆さんの発想でぜひ新しい利用方法を提案してください。

(Q)工場の温度管理で環境に配慮していることは

(A)高森工場の屋根には、太陽熱を吸収しにくい塗料を採用しています。

(Q)容器のリサイクル対策は

(A)完熟納豆いちのパックは、発泡スチロールではなく、以前の東京都の条例で可燃性ゴミに指定されていたトレーを採用しています。



(Q)我が校の加工所のような、小さな規模の組織でも取り組むことのできる環境対策は

(A)一人ひとりの日常的な省エネ活動が基本です。照明の本数を減らしたり、実習で排出される生ゴミの減少や資源化など、地道な取り組みが大事です。皆さんのような学生が組織的に取り組むことは、家庭への大きな影響力があります。



こうや豆腐製「こうや城」

何よりも表示を守ること 欠かせない衛生管理

(Q)商品開発はどのように行われていますか

(A)本店食品研究所のほか、大阪に新商品開発のためのセンターがあります。消費者ニーズに合わせた既存商品の改善は本社企画部門でも対応しています。

(Q)1日の生産量は

(A)こうや豆腐を生産しているこの天龍工場では、1日46万切れを生産。年間1億切れに達します。

(Q)食品の衛生管理で絶対守らなければならないことは何ですか

(A)社会的にも問題となっていますが、表示です。原材料、生産地、賞味期限など、食品には様々な表示があります。加工に必要なにがりやあわけしなど表示にない材料も含めて、表示を守ることが何よりも大事です。

(Q)納豆菌培養の留意点は

(A)納豆菌は雑菌に弱い菌です。他の菌を持ち込まないための管理が大事です。

「上を目指して学ぶ子どもも増えていますが、生徒たちの多くは、最後は地元で仕事を選びます。地元企業に学び、取り組みを知ることのできるこの講座は、生徒たちにとっても大事な財産です」。藤本先生のことばです。

同校今年の文化祭のテーマは「エコロジー」。講座の成果も披露されます。



次回講座は水がテーマ。「アウトオブウォーター」と「水道水ができるまで」を学びます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



9月28日に代表者会 工業高校の発表も

「気象ロボットの製作」(3年生の課題研究から)と「ISO推進委員会の活動」(生徒会活動から)。

9月28日(金)午前10時から、飯田信用金庫本店大会議室で、地域ぐるみ環境ISO研究会参加事業所代表者会が行われます。

今回の代表者会では、飯田工業高校の生徒の皆さんが冒頭の事例を発表します。

下伊那農業高校生と飯田長姫高校生の発表が行われた3月の代表者会に引き続き、今回も高校生が発表します。

次代を担う若者たちと地元事業所が、良い形で連携するきっかけとなることを期待されます。

先進事例DVD

環境市民の取材を受けます

環境首都コンテストを主催する環境市民の皆さんが、9月27日(木)、28日(金)、持続可能な地域づくりに向けた飯田市の先進事例の取材に訪れます。

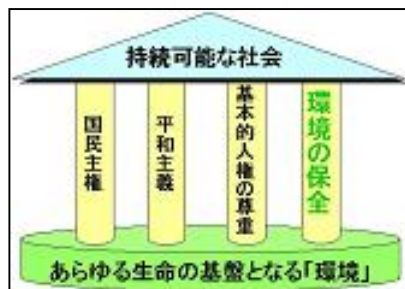
環境市民では、首都コンテストにあわせて、一昨年から、先進的な自治体の取り組みをDVDに収録し、全国に紹介する試みも進めています。第3回目となる今年は、飯田市も候補地の一つに。代表者会にあわせて、地域ぐるみ環境ISO研究会の活動や、南信州いむす21の取り組みの取材を受けます。

おひさま共同発電など環境にたいする取り組み、公民館や婦人文庫活動、エコツーリズムなど、地域の風土を生かした取り組みも紹介されます。



環境文明21、長谷村で グリーン経済研究会

持続可能な地域づくりに向けて市場や経済のしくみを変えていく「グリーン経済」。環境NGO、環境文明21が提案しています。同組織の代表は環境庁初代環境部長を務めた加藤三郎さんです。



環境文明21では一昨年から地球環境の維持・保全を前提とした持続可能な社会をつくるための経済システムを、10の提言にまとめました。

9月22日(土)午後1時30分から5時まで、伊那市長谷中尾座で開催。参加費は無料。内容は以下の通りです。

【提言】「食べる」こと(食と農)、「働く」こと(働き方)、「買う」こと(グローバル経済下の地域経済)、「支える」仕組み(適正な規制と経済的手法)。4つのテーマで提言が行われます。

【休憩】会場は地芝居を行う歌舞伎小屋です。楽屋や奈落の見学や、地元産のおやきなどをいただきます。

【パネルディスカッション】

コーディネータは藤村コノエ氏(環境文明21 共同代表)。パネラーは津野祐次氏(山岳写真家)、田山重晴氏(下伊那地方事務所長、中尾歌舞伎役者)、白鳥孝氏(伊那市副市長)、加藤三郎氏(NPO法人環境文明21 代表理事)。

申込み、問合せは同会伊那支部津村さんまで。ぜひお誘いあわせてご参加ください。

tel0265-94-1201

e-mail sugimura@ecoport.co.jp

長野市内部監査に 参加しました

研究会事務局員でもある、2人の飯田市職員が、長野市の内部監査に参加しました。

長野市は清掃センター、一般廃棄物処分場、浄化センターなど環境負荷の大きな現場も含めて、主要な職場がISO14001の適用範囲です。外部審査機関の認証を受けていますが、事務局監査には、ながの東急百貨店、信州大学工学部から相互内部監査員が参加。内部監査でも透明性や客観性を求めています。



今回は清掃センターと行政改革推進局の内部監査に参加。清掃センター職員の皆さんは法令に対する理解も深く、順守の意識の高さを実感。行政評価も主管する行政改革推進局では、環境マネジメントシステムとの両立について質問。目標管理を含めて多様なマネジメントシステムが取り込まれるようになった最近の自治体事情は飯田市も同様。共通の課題を実感しました。

7月25日に行われた飯田市役所の事務局監査にも長野市から参加。組織を越えた内部監査は、自らの組織の取り組みを振り返るためにも大変意義ある機会です。同業の自治体同士だけでなく、研究会に参加する事業所など、異業種交流の手法として、相互内部監査の環の広がりが期待されます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



首都コンに見る先進事例 研究会、京(みやこ)で発表

「飯田はもともと産業がなく貧しい地域でした。そのため戦時中は満州にも多くの人材が出て行きました。その頃、地域に産業を起こしたいと起業する者が出て、今のように地域密着型の事業が育ちました。自分たちが地域活性化に貢献し、それによって自分たちも恩恵を受けるといふ循環を作りたい。私たちの地域の、多くの事業者が持つ思いでした。」



9月16日、京都市の京(みやこ)エコロジーセンターでシンポジウム「地域から日本を変える！環境首都コンテストに見る先進事例」が行われました。冒頭は、地域ぐるみ環境ISO研究会沢柳事務局長の発言です。コーディネータは環境市民代表の枚本育生さん。2006年環境首都コンテスト第1位、北九州市の参加者とともに発表者として招かれました。

「環境問題は地域の事業所、自治体が連携して取り組まなければ実際の解決には至りません。1997年、市役所を含めた6事業所で発足した研究会。入るも抜けるも自由、自由で自主的な活動を進めてきた研究会。地域独自のEMS南信州いむす21の構築、温暖化防止一斉行動、事業所訪問、学習会、高校への出前講座など多様な活動を進めています。参加動機は事業所によってまちまちですが、点(事業所)から面(地域)の活動へ、協働で地域全体のレベルアップを目指しています。まだまだ道は半ばです」。

全国各地で先進的な環境の取り組みは進められていますが、企業と行政が協働した研究会のような活動は貴重です。

子どもの未来のために BDFを知る研修会

「低温に弱い性質から、12月から4月までは軽油を使用、BDFから軽油に切り替える際には燃料フィルターを必ず交換します。自動車燃料としてのBDFは確かに軽油に比べて課題はありますが、未来の子どもたちのため、環境負荷を低減するために、BDF100%のディーゼル車を利用しています」。



9月15日(土)午後1時30分から飯田市環境技術開発センターで、「バイオディーゼル燃料(BDF)を知る研修会」が行われました。講師は有限会社染谷商店グループの松尾春樹さんです。主催は飯田市環境協議会。冒頭は研修会に参加したBDF燃料ユーザーの発言です。

BDFはバイオマス・ディーゼル・ヒューエル。ベジタブル・ディーゼル・フューエル(VDF)とも表します。カーボンフリーのエネルギーとして注目されています。染谷商店はBDF燃料開発のパイオニア。BDF、VDFとも同社の登録商標です。

40万トンの廃食用油を 再利用するために

天ぷらやドレッシングなど、私たちが国内で消費する食用油は年間200万トンといわれます。そのうち家庭や飲食店から排出される廃食用油は40万トン、うち20万トンは回収され、飼料、肥料、石けん、塗料などに再生されています。

一方国内で生産される軽油は年間400万トン。未回収の20万トンを再利用すれば、国内の軽油はすべてBDFが5%混合した燃料に生まれ変わります。

循環型の社会づくりにむけて、ぜひ検討してみたいテーマです。

自由が丘を走る サンクスネーチャーバス

サンクスネーチャーバス。BDFを燃料に、1995年より目黒区自由が丘を走るコミュニティバスです。地元商店主が中心となった「サンクスネーチャーバスを走らす会」が運営。乗車賃無料で広告収入だけで運行しています。



目黒区では2,000年から廃食用油の分別収集もスタート。染谷商店は市民の取り組みにも積極的に協力しています。

「植物油製の地球にやさしい燃料」「硫黄酸化物が発生しない」「黒煙の発生が少ない」「引火点が高く安全」。BDFのメリットです。

反面「油汚れやゴムなどを溶かす性質があり燃料詰まりにつながりやすい」「軽油に比べ粘度が高く低温に弱いことで、寒冷地の使用に課題がある」「水分を吸収しやすく、製品としての寿命が短い」などの課題もあるそうです。

Q.製造プラントの価格は？

A.本体は350万円。加熱処理などをしないしくみであることから工事は不要。

Q.原料の廃食用油から廃棄されるグリセリンの処分は？

A.工場の燃料などへの再利用も可能。

Q.軽油取引税について？

A.含有する炭化水素に対する課税。BDFには含まれないため、軽油と混合する場合にのみ課税。

すでに事業化を視野に入れる参加者も多く、質問も具体的。今回をきっかけに、取り組みの輪の広がりも期待されます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精織株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



はじめての飯田開催 内部監査員養成セミナー

「法規制に対応するだけのパイプエンド型の取り組みであるならば、EMSを構築する意味がありません。不適合品を減らしたり、リサイクルを進めるなど、製品の歩留まりを向上させてコスト削減に結びつける。長寿命型製品の開発や、製品のコンパクト化など、環境配慮型の製品を開発し、市場ニーズに応える。環境負荷の低減に結びつくような経営ツールとしてEMSを構築することが大事です」。



9月20日(木)、21日(金)、飯田地域地場産業振興センターを会場に、ISO14001内部監査員養成セミナーが行われました。主催は飯田産業技術大学と地域ぐるみ環境ISO研究会です。冒頭はセミナー講師、齋藤喜孝さんのことばです。

齋藤さんは審査専門機関、オーディックスレジストラ代表取締役。日本で初めてISO14001を導入した、新日本製鐵やトヨタ自動車の立ち上げにも深く関わった方です。これまで1000件を超える審査経験から、実践的でわかりやすい講座となりました。

EMSが組織の中で有効に機能するために、内部監査は大変重要な機会です。内部監査員の養成のためにこれまでは、事業所ごとに東京などで専門機関が主催する研修会に派遣していました。飯田で開催することで、費用負担を軽減し、多くの参加者を得ることで、事業所の取り組みのレベルアップにつなげたい。開催趣旨に賛同いただき、13事業所35人の参加で実施に至りました。

組織員全体の参加と 本来業務への適用を

「環境を配慮した厚生(労務担当)。ペーパーレスの推進(総務担当)。不適合品の削減(品質保証)。EMSは組織の構成員一人ひとりが主体的に取り組むことが大事です。環境配慮が本業でない、間接部署の参加を進めるためには、『紙ゴミ電気』を越えて、本来業務で有益な活動を広げることが大切です」。



「法的要求事項とは組織の環境側面に関係する広い意味での要求事項。政府や自治体などが発行した法的強制力のあるものです。グリーン購入法や環境教育推進法などは『組織が同意するその他の要求事項』として捉えましょう」。

「『目的及び目標は...測定可能なこと』。年5回教育訓練を行う計画を立て5回実施できたら100%。そうではなくて、教育訓練でどのような力量をつけるのか、ねらいを持つことが必要です」。

「自動車の運転を例とします。交通ルールを理解して、運転技術も習得しています。けれどもルールを守る意識がなければ、力量を持ったとはいえません」。

「規格や環境マニュアルの上では不適合とはいえなくても、改善することで、組織の取り組みが向上や、全員参加の取り組みに広がる。内部監査でそんな指摘を行うことを『改善の機会』と表現しています」。

具体的で実践的な、たくさんのアドバイスをいただきました。

受ける側が自分から 問題に気づく監査へ

「アドバイスではなく、問題を指摘。監査を受ける側が自分から、問題解決の方法を考えるようにしむけることが大事です」。2日目の午後は5人ずつ7グループに分かれたケーススタディです。



ある食品製造工場を舞台に、初回会議、トップインタビュー、EMR事務局、現場製造部や開発部の監査を想定。講師の用意した内部監査のストーリーにたいし、不適合や改善の機会の指摘を行いました。昼食時間まで食い込んで話し合いを続ける熱心な参加者もいます。

「何回受講しても新しい発見があります」。研修に参加した、研修会実務者の発言です。具体的でわかりやすい講師の話は、初任者にとっても経験者にとっても有益です。

「はじめて飯田で開催できたことで、多くの参加をいただきました。参加者一人ひとりがEMSの理解を深め、その力を事業所の環境改善につなげてください」。研究会の沢柳事務局長による終わりのことばです。

終了後、参加者一人ひとりに修了証が手渡されました。地元で開催することで、資金の地域内循環にもつながります。ぜひ来年も継続したいセミナーです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



信州減 CO² コンテスト 研究会、最優秀賞を受賞

「『家族で話し合いをしたところ、子どもが玄関の電灯などを切ってくれるようになりました』(ライトダウン参加者の声)。地域ぐるみ環境 ISO 研究会はこれからも、地球温暖化防止に向けて、機会あるごとに一斉行動に取り組みます」。



9月23日(日)、長野市のホテル信濃路で「信州減 CO²(げんこつ)コンテスト最終選考会」が行われました。「温暖化対策一村一品知恵の環づくり」。政府が提唱する温暖化防止の国民運動です。この運動を各地域から呼び起こしていくことを目指し、各県単位の取り組みが進められています。信州減 CO² コンテストは長野県としての取り組みです。主催は県環境保全協会と、地球温暖化防止センターです。

コンテストには37団体がエントリー。最終選考会には10団体が選ばれて、プレゼンテーションを行いました。地域ぐるみ環境 ISO 研究会は「京都議定書発効や環境の日を記念した、地域ぐるみの温暖化防止一斉行動」でエントリー。審査の結果、最優秀賞「信州グランプリ」を受賞しました。優秀賞「県知事賞」はおひさま進歩エネルギー株式会社、同じく「信濃毎日新聞社賞」は信州省エネパトロール隊が受賞。10月5日(金)に表彰式が行われます。最優秀賞を受賞したことで、2月に行われる温暖化対策一村一品知恵の環づくり全国集會に参加する資格もいただきました。

一斉行動の広がりを通し 行動から意識の変化へ

2007年2月16日5,636人が参加し5.7tのCO²削減効果を上げた「京都議定書発効2周年一斉行動」。6月5日~11日13,485人が参加し15.8tのCO²削減効果を上げた「環境の日、一斉行動週間」。10月25日~31日に予定している「生活と環境まつり一斉行動週間」。

「夜型の生活環境の中で...少しずつ生活習慣を変えていけたらと思います。保育園・学校でもこのような取り組みが進められれば一石二鳥かな...」「...営業用ネオンと水銀灯の消灯を全店舗で行いました...」「家族でノーマイカーに取り組みました」。

機会あるごとの一斉行動の取り組みや、毎回の行動を通した取り組みの広がりや参加者意識の変化が評価されました。

優秀賞におひさま進歩 飯田の事例が上位に

「2004年から2008年にかけて、約150箇所、合計1,208kw『市民共同の南信州おひさま発電所』を設置します」。優秀賞にはおひさま進歩エネルギー株式会社(株)が選ばれました。公共施設の屋根を活用した取り組み、市民出資という参加のしくみ、グリーン電力証書の販売、保育園児にたいする環境教育活動などが評価されました。

「エコドライブと燃費向上グッズを組み合わせ、一般乗用車から排出されるCO²の削減」をめざす、信州環境ネットアクセスも飯田からのエントリーです。最終選考10事例のうち飯田からは3つが選出されました。



コンテストを機会に 取り組みの環の広がりを

エントリーされた事例は次の通りです。

事業所の省エネ診断を、企業ネットワークによるボランティア活動で進める「環境の長野県と胸を張れる信州を目指して」(信州省エネパトロール隊)。用水路などに小水力発電装置を設置する「自然エネルギーを活用したサル・イノシシ対策~水の力で地域を守る」(須坂市生活環境課)。中山間地域の自治組織による薪の利用を通した「木資源利用による、循環型地域の構築」(長野市信里地区木資源利用委員会)。チェックシートを活用し、市民一人ひとりの温暖化防止活動を広める「千曲市地球環境デー」(千曲市地球温暖化対策協議会)。地域の小中学校と連携し、子どもたちへの環境教育を進める「小さな力による社会貢献活動」(セイコーエプソン(株)広丘事業所)。ミニ水力発電やBDFの生産と活用を進める「市民が進める2つのエコプロジェクト」(NPO 地域づくり工房)。カラマツストーブの普及を通した「木質バイオマスの利用を拡大させCO²の大幅削減」(唐松ストーブ普及LLP)。



いずれも高い意識と行動力を持った取り組みです。今回の機会が出会いとなり、共同の取り組みが広がることも期待されます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp